

ご挨拶

長崎大学は、平成21年度に「男女共同参画推進センター」を開設し、平成27年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」に採択されたことを機に、センター名を「ダイバーシティ推進センター」と改称しました。

令和元年には「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」に採択され、病院の働き方見直しプログラム、女性研究者海外派遣支援、全教職員の意識改革に取り組み、女性研究者がキャリアアップしやすい環境をバックアップしています。

長崎大学では“ダイバーシティの尊重と推進”を大学の持続的発展に必須の戦略として位置付け、「長崎大学におけるダイバーシティ推進の基本方針」として、

- ①ダイバーシティの正しい理解と多様性を尊重する社会人としての意識の醸成
- ②仕事と生活の充実がシナジー効果を生み出す環境の整備
- ③採用・育成・登用における男女共同参画の実現

の3つを掲げ、全学及び学域・部局における行動計画を掲げて取り組んでいます。

その成果として、今年度の目標であった女性教授在籍率16%、女性研究者在籍率25%、さらに「女性活躍推進のための行動計画」の女性教員在籍率25%を達成しました。特に女性研究者在籍率に関しては、国立総合大学のなかでも1位であり、高く評価されています。

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）の5年間の成果として、ダイバーシティ推進への理解は学内に着実に浸透してきました。

女性研究者たちの高い研究力は、学内だけではなく国内外においても高く評価され、大学病院における働き方見直しプログラムは、来年度本格的な医師の働き方改革が施行されるにあたり、学外からも多くの関心が寄せられています。

本学がビジョンとして掲げる「プラネタリーヘルス（地球の健康）に貢献する大学」を実現するためにも、「多様性」は重要なキーワードのひとつであることから、女性研究者の採用及び上位職登用において今後さらに高い目標を設定し、自由でかつ多様な教育の提供や多様な人材を受け入れる柔軟な体制への転換を積極的に推し進めてまいります。

今後も、誰もが働きやすい環境で生き生きと教育・研究活動ができる輝く未来の実現のために、ダイバーシティ推進センターを中心に更に努力していく所存です。

引き続き本事業に対する皆様のご協力、ご支援を何卒宜しくお願い致します。



令和6年2月

国立大学法人 長崎大学
学長 永安 武

ご挨拶

皆様、いつも長崎大学ダイバーシティ推進にご協力いただきありがとうございます。ありがとうございます。

今年度を振り返ると、戦争の脅威が私たちの世界を覆い、平和と安定の尊さを改めて感じさせられる一年でした。改めて「新しい戦前」にならないよう、差異を超え、対話を重ねる努力を続けなければならないと感じます。そしてそれは世界に限らず、身近な環境でも同様だと思います。

長崎大学では10月に永安学長のもと新体制となりました。体制は変わりましたが、前学長が掲げた「地球の健康（プラネタリーヘルス）」の実現という目標は継承されています。「地球の健康」を支える成果を出すためには、教職員のそれぞれが多様性のもとで互いに尊重しあい、働きやすい環境で力を発揮し、生き生きと研究活動や業務に従事できることが大切です。ダイバーシティ推進センターは女性の活躍推進を筆頭に掲げながらダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン等に関する環境整備を進めてまいりました。

振り返ると平成27年度に遡ります。文部科学省科学技術人材育成費補助事業を受けながら進めており、補助事業の「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」（以下、特色型）は令和2年度に終了し、続いて採択された「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」（以下、先端型）が5年目を終えようとしています。

特色型では、女性研究者比率の向上と、それを支える学内教職員のワークライフバランスの実現、特にライフイベントのサポートのしくみづくりと運用に取り組んでまいりました。女性研究者比率は現在25%を超え、さらに女性教授職は16%を超えて、国立大学のなかではトップに立ち、ギアチェンジの段階になったと言えます。

先端型では、女性研究者サポートオフィスを開設して、海外派遣や英語論文作成支援をはじめとする様々な研究支援を行ってまいりました。大学全体のダイバーシティに関する意識改革として、包括的な学習プログラムを構築し、eラーニングで学ぶことができるようにしています。採用や昇進など人事に関わる教職員には必見の教材です。働き方の在り方が重視されている医療・医学領域に対しては、大学病院での働き方見直しプログラムをボトムアップ型で進めております。

コロナ禍が終焉の兆しを見せ、コロナを超えた新しい時代を実感する1年でもありました。この変革の中で、未来を見据えた協力が挑戦の雰囲気や芽吹いていることを実感します。この風にダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの風も織り交ぜて、より一層多くの人々に定着することを期待しています。今後も継続して努力を続けてまいりますので、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和6年2月

長崎大学ダイバーシティ推進センター
センター長 安武 敦子

